

CLUSTERPRO X SingleServerSafe 1.0 for Linux

アップデート手順書

CPRO-LX410-03用 第1版

1 はじめに

この手順書は 以下の製品の CPRO-LX410-03 アップデートの手順書です。

* CLUSTERPRO X SingleServerSafe 1.0 for Linux	UL4391-001, 011
* CLUSTERPRO X Alert Service 1.0 for Linux	UL4276-005
* CLUSTERPRO X Database Agent 1.0 for Linux	UL4276-006
* CLUSTERPRO X Internet Server Agent 1.0 for Linux	UL4276-007
* CLUSTERPRO X Application Server Agent 1.0 for Linux	UL4276-008
* CLUSTERPRO X File Server Agent 1.0 for Linux	UL4276-009

以下には本Updateを適用しないでください。

CLUSTERPRO for Linux Ver1.0 (UL4006-001)

CLUSTERPRO Lite! for Linux Ver1.0 (UL4006-003)

CLUSTERPRO SE for Linux Ver2.0 (UL4006-101)

CLUSTERPRO LE for Linux Ver2.0 (UL4006-103)

CLUSTERPRO SE for Linux Ver2.1 (UL4006-201)

CLUSTERPRO LE for Linux Ver2.1 (UL4006-203)

CLUSTERPRO SE for Linux Ver3.0 (UL4006-301, 311, 321, 331, 341)

CLUSTERPRO LE for Linux Ver3.0 (UL4006-303, 313, 323, 333)

CLUSTERPRO SE for Linux Ver3.1 (UL4006-401, 411, 421, 431, 441)

CLUSTERPRO LE for Linux Ver3.1 (UL4006-403, 413, 423, 433)

CLUSTERPRO SX for Linux Ver3.1 (UL4006-408, 418, 428, 438)

CLUSTERPRO SingleServerSafe for Linux Ver1.0 (UL4026-001, 011)

CLUSTERPRO FastSync Option for Linux Ver2.1 (UL4006-007)

CLUSTERPRO FastSync Option for Linux Ver3.0 (UL4006-107)

CLUSTERPRO FastSync Option for Linux Ver3.1 (UL4006-207)

CLUSTERPRO データベース監視オプション for Linux R1.0 (UL4006-005)

CLUSTERPRO データベース監視オプション for Linux R1.1 (UL4006-105)

CLUSTERPRO データベース監視オプション for Linux R2.0 (UL4006-205)

CLUSTERPRO データベース監視オプション for Linux R3.0 (UL4006-305)

CLUSTERPRO ファイルサーバ監視オプション for Linux R1.0 (UL4006-006)

CLUSTERPRO ファイルサーバ監視オプション for Linux R2.0 (UL4006-106)

CLUSTERPRO ファイルサーバ監視オプション for Linux R3.0 (UL4006-206)

CLUSTERPRO インターネットサーバ監視オプション for Linux R2.0 (UL4006-108)

CLUSTERPRO インターネットサーバ監視オプション for Linux R3.0(UL4006-208)

CLUSTERPRO アプリケーションサーバ監視オプション for Linux R3.0(UL4254-001)

CLUSTERPRO X 1.0 for Linux (UL4276-002, 012, 022, 032, 042, 052)

CLUSTERPRO X Replicator 1.0 for Linux (UL4276-003, 013)



本アップデート適用後はシステム構築ガイドは下記の版を参照ください。

- | | |
|----------------------------|-------|
| + スタートアップガイド | 第4版以降 |
| + インストール&設定ガイド | 第3版以降 |
| + リファレンスガイド | 第2版以降 |
| + Alert Service 1.0 管理者ガイド | 第2版以降 |

必ず最新版のシステム構築ガイドを入手してください。以下のURLに掲載されています。

<http://www.ace.comp.nec.co.jp/CLUSTERPRO/>

2 アップデートの適用が可能なバージョン

2.1 CLUSTERPROサーバ

2.1.1 すでに運用中の場合 (IA32版)

以下の手順でCLUSTERPRO X SingleServerSafeのバージョンを確認します。x86_64版は 2.1.2 を参照してください。

- (1) サーバにrootでloginします。
- (2) rpmコマンドを実行します。

```
rpm -qi clusterprosss <return>
```

- (3) rpmの実行結果が表示されます。VersionとReleaseを確認してください。

(rpmコマンドの実行結果の例)

```
Name      : clusterprosss          Relocations: (not relocateable)
Version    : 1.1.0              Vendor: (none)
Release    : 1                  Build Date: Fri Jun 05 19:49:28 2007
Install Date: Tue Sep 04 15:16:07 2007  Build Host: clg239
Group      : Applications/System  Source RPM: clusterprosss-1.1.0-1.src.rpm
Size       : 30539039            License: commercial
Summary    : CLUSTERPRO X SSS 1.0 for Linux(i686)
Description:
CLUSTERPRO X SSS 1.0  for Linux(i686)
```

このバージョンが以下の場合には本アップデートが必要です。下記以外のバージョンのCLUSTERPROサーバには本アップデートを適用しないでください。

- * **Version 1.1.0 Release 1**
- * **Version 1.1.1 Release 1**
- * **Version 1.1.2 Release 1**

本アップデート適用後には以下のバージョンになります。

- * **Version 1.1.3 Release 3**

2.1.2 すでに運用中の場合 (x86_64版)

以下の手順でCLUSTERPRO X SingleServerSafeのバージョンを確認します。

- (1) サーバにrootでloginします。
- (2) rpmコマンドを実行します。

```
rpm -qi clusterprosss <return>
```

- (3) rpmの実行結果が表示されます。VersionとReleaseを確認してください。

(rpmコマンドの実行結果の例)

Name	: clusterprosss	Relocations:	(not relocateable)
Version	: 1.1.0	Vendor:	(none)
Release	: 1	Build Date:	Tue Jun 5 19:56:50 2007
Install Date:	Thu Dec 14 13:28:46 2006	Build Host:	clg190
Group	: Applications/System	Source RPM:	clusterprosss-1.1.0-1.src.rpm
Size	: 31525464	License:	commercial
Summary	: CLUSTERPRO X SSS 1.0 for Linux(x86_64)		
Description	:		
	CLUSTERPRO X SSS 1.0 for Linux(x86_64)		

このバージョンが以下の場合には本アップデートが必要です。下記以外のバージョンのCLUSTERPROサーバには本アップデートを適用しないでください。

- * **Version 1.1.0 Release 1**
- * **Version 1.1.1 Release 1**
- * **Version 1.1.2 Release 1**

本アップデート適用後には以下のバージョンになります。

- * **Version 1.1.3 Release 3**

2.1.3 新規にインストールをする場合 (IA32版)

ダウンロードしたrpmファイルを使用してインストールしてください。x86_64版は2.1.4 を参照してください。

本アップデートのrpm
+ **clusterprosss-1.1.3-3.i686.rpm**

本アップデートをダウンロードした場合は、以下のrpmはインストールしないでください。

+ **clusterprosss-1.1.0-1.i686.rpm**
+ **clusterprosss-1.1.1-1.i686.rpm**
+ **clusterprosss-1.1.2-1.i686.rpm**

2.1.4 新規にインストールをする場合 (x86_64版)

ダウンロードしたrpmファイルを使用してインストールしてください。

本アップデートのrpm
+ **clusterprosss-1.1.3-3.x86_64.rpm**

本アップデートをダウンロードした場合は、以下のrpmはインストールしないでください。

+ **clusterprosss-1.1.0-1.x86_64.rpm**
+ **clusterprosss-1.1.1-1.x86_64.rpm**
+ **clusterprosss-1.1.2-1.x86_64.rpm**

2.2 CLUSTERPRO Builder



CLUSTERPROサーバとCLUSTERPRO Builderのバージョンの組み合わせによっては、動作しない場合があります。
スタートアップガイドの 第4版以降を参照してください。

2.2.1 すでにインストール済みの場合

以下の手順でCLUSTERPRO Builderのバージョンを確認します。

- (1) Builderを起動します。
- (2) メニューの[ヘルプ]-[バージョン情報]を選択します。
- (3) バージョン情報が表示されます。Cluster Builder for Linux Versionを確認してください。

このバージョンが以下の場合には本アップデートが必要です。下記以外のバージョンのCLUSTERPRO Builderには本アップデートを適用しないでください。

- * **Version 1.1.0-1**
- * **Version 1.1.2-1**

本アップデート適用後には以下のバージョンになります。

- * **Version 1.1.3-1**

2.2.2 新規にインストールをする場合

(1) Linuxの場合

ダウンロードしたrpmファイルを使用してインストールしてください。

本アップデートのrpm

+ **clusterprosssbuilder-1.1.3-1.linux.i686.rpm**

本アップデートをダウンロードした場合は、以下のrpmはインストールしないでください。

+ **clusterprosssbuilder-1.1.0-1.linux.i686.rpm**

+ **clusterprosssbuilder-1.1.2-1.linux.i686.rpm**

(2) Windowsの場合

ダウンロードした自己解凍exeファイルを使用してインストールしてください。

本アップデートの自己解凍exe

+ **clusterprosssbuilder-1.1.3-1.linux.i686.exe**

本アップデートをダウンロードした場合は、以下の自己解凍exeは使用しないでください。

+ **clusterprosssbuilder-1.1.0-1.linux.i686.exe**

+ **clusterprosssbuilder-1.1.2-1.linux.i686.exe**

3 アップデート手順

3.1 CLUSTERPROサーバ

現在の使用状態によってアップデートの手順が異なりますので、それぞれの手順をよく読んで実行してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafeのインストール時に引き続きアップデートを適用する場合

本書 3.1.1 と 3.1.4 を参照してください

すでに運用中のCLUSTERPRO X SingleServerSafeにアップデートを適用する場合

本書 3.1.2 と 3.1.4 を参照してください

すでに運用中のCLUSTERPRO X SingleServerSafeに無停止アップデートを適用する場合

本書 3.1.3 と 3.1.4 を参照してください

DB2モニタリソースおよびOracleモニタリソースを使用している場合

下記のバージョンから本バージョンにアップデートする場合、監視に使用している文字コードのうち一部のものは再設定する必要があります。本書 3.1.5 を参照してください

- * Version 1.1.0-1
- * Version 1.1.1-1
- * Version 1.1.2-1

3.1.1 CLUSTERPRO X SingleServerSafeを 新規インストールする場合



kernel のアップデートを行う場合には、CLUSTERPRO X SingleServerSafeのインストール前にkernelのアップデートを実施してOS(kernel)が正常に起動することを確認しておいてください。

以下(1)～(3)の手順を行います。

- (1) ダウンロードして解凍処理を行ったrpmファイル(本アップデート)を置いたディレクトリに移動します。

```
cd <rpmファイルを置いたディレクトリ>
```

- (2) IA32版の場合は以下のコマンドを実行してインストールを行ってください。

```
rpm -i clusterprosss-1.1.3-3.i686.rpm --nodeps
```

x86_64版の場合は以下のコマンドを実行してインストールを行ってください。

```
rpm -i clusterprosss-1.1.3-3.x86_64.rpm --nodeps
```

- (3) サーバをshutdownコマンドやrebootコマンドで再起動した後に、『インストール&設定ガイド 第4章 ライセンスを登録する』以降の手順を継続してください。

3.1.2 すでに運用中のCLUSTERPRO X SingleServerSafeにアップデートを適用する場合



kernelのアップデートを行う場合には、必ず下記の手順でkernelのアップデートを実施してください。

アップデートを適用するには以下の手順を実行します。

- (1) 以下のコマンドを実行してサービスの起動設定を変更します。

```
chkconfig --del clusterpro_alertsync
chkconfig --del clusterpro_webmgr
chkconfig --del clusterpro
chkconfig --del clusterpro_trn
chkconfig --del clusterpro_evt
```

次回のOS起動時にCLUSTERPRO X SingleServerSafeが起動しないように設定されます。

- (2) WebManagerからクラスタのシャットダウンを実行します。
WebManagerを使用していない場合には、サーバからclpstdnコマンドを実行してクラスタのシャットダウンを実行します。
- (3) サーバを再起動してrootでloginします。
- (4) kernelのアップデートを行う場合には、このタイミングでkernelのアップデートを実施してください。
- (5) kernelのアップデートを行った場合には、サーバをshutdownコマンドやrebootコマンドで再起動して、rootでloginします。
- (6) ダウンロードして解凍処理を行ったrpmファイル(本アップデート)を置いたディレクトリに移動します。

```
cd <rpmファイルを置いたディレクトリ>
```

- (7) IA32版の場合は以下のコマンドを実行してアップデートを行ってください。

```
rpm -U clusterprosss-1.1.3-3.i686.rpm --nodeps
```

x86_64版の場合は以下のコマンドを実行してアップデートを行ってください。

```
rpm -U clusterprosss-1.1.3-3.x86_64.rpm --nodeps
```

- (8) 以下のコマンドを実行してサービスの起動設定を変更します。SuSE Linuxでは --force オプションをつけて実行してください。

```
chkconfig --add clusterpro_evt  
chkconfig --add clusterpro_trn  
chkconfig --add clusterpro  
chkconfig --add clusterpro_webmgr  
chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

次回のOS起動時にCLUSTERPRO X SingleServerSafeが自動起動するように設定されます。

- (9) サーバをshutdownコマンドやrebootコマンドで再起動します。
- (10) WebManagerに接続しているブラウザを終了し、Javaのキャッシュをクリアした後、ブラウザを再起動してください。

以上でアップデートが終了しました。次回の起動時からCLUSTERPRO X SingleServerSafeが起動します。

3.1.3 すでに運用中のCLUSTERPRO X SingleServerSafeに無停止アップデートを適用する場合



kernelの更新はアップデートの作業が終了してから実施してください。

無停止アップデートを適用するには以下の手順を実行します。

- (1) サーバが正常状態にあることを確認します。
WebManagerやclpstatコマンドを使用して確認します。
- (2) サーバ上で、clpclコマンドを使用してCLUSTERPROデーモンをサスペンドします。

```
clpcl --suspend
```

- (3) サーバでCLUSTERPROデーモン以外のサービスを停止します。

```
/etc/init.d/clusterpro_alertsync stop  
/etc/init.d/clusterpro_webmgr stop  
/etc/init.d/clusterpro_trn stop  
/etc/init.d/clusterpro_evt stop
```

- (4) ダウンロードして解凍処理を行ったrpmファイル(本アップデート)を置いたディレクトリに移動します。

```
cd <rpmファイルを置いたディレクトリ>
```

- (5) IA32版の場合は以下のコマンドを実行してアップデートを行ってください。

```
rpm -U clusterprosss-1.1.3-3.i686.rpm --nodeps
```

x86_64版の場合は以下のコマンドを実行してアップデートを行ってください。

```
rpm -U clusterprosss-1.1.3-3.x86_64.rpm --nodeps
```

- (6) 以下のコマンドを実行してCLUSTERPROデーモン以外のサービスを起動します。

```
/etc/init.d/clusterpro_evt start  
/etc/init.d/clusterpro_trn start  
/etc/init.d/clusterpro_webmgr start  
/etc/init.d/clusterpro_alertsync start
```

- (7) サーバ上で、clpclコマンドを実行してCLUSTERPROデーモンをリジュームします。

```
clpcl --resume
```

- (8) WebManagerに接続しているブラウザを終了し、Javaのキャッシュをクリアした後、ブラウザを再起動してください。

以上でアップデートが終了しました。

3.1.4 アップデートの確認

2.1 CLUSTERPRO X SingleServerSafeのバージョン確認の手順で確認してください。

3.1.5 文字コードの変更

アップデートを行う前のCLUSTERPROバージョンが 1.1.0-1 ~ 1.1.2-1でDB2モニタリソースおよびOracleモニタリソースが下記の文字コードで監視していた場合は、アップデート完了後に文字コードを変更する必要があります。以下の表を参照して文字コードを変更してください。

監視リソース	アップデート前の文字コード (1.1.0-1 ~ 1.1.2-1)	アップデート後に変更する文字コード (1.1.3-1 ~)
DB2 モニタリソース	zh_TW.eucTW	zh_TW.big5
	zh_TW.utf8	
Oracle モニタリソース	JAPANESE_JAPAN.JA16JIS	JAPANESE_JAPAN.JA16SJIS
	JAPANESE_JAPAN.JA16JISTILDE	JAPANESE_JAPAN.JA16SJISTILDE
	TRADITIONAL_CHINESE_HONG KONG.ZHT32EUC	TRADITIONAL_CHINESE_HONG KONG.ZHT16BIG5

- * DB2モニタリソースの文字コードを変更する場合は、『リファレンスガイド 第6章 モニタリソースの詳細』の「DB2モニタリソースを理解する」を参照してください。
- * Oracleモニタリソースの文字コードを変更する場合は、『リファレンスガイド 第6章 モニタリソースの詳細』の「Oracleモニタリソースを理解する」を参照してください。

3.2 CLUSTERPRO Builder

現在の使用状態によってアップデートの手順が異なりますので、それぞれの手順をよく読んで実行してください。

但しLinuxへのインストール手順の際のrpmファイルはダウンロードしたrpmファイルに読み替えて下さい。また、Windowsへのインストール手順の際のexeファイルはダウンロードしたexeファイルに読み替えて下さい

CLUSTERPRO Builderを新規インストールする場合

本書 3.2.1 と 3.2.3 を参照してください

すでにインストール済みのCLUSTERPRO Builderにアップデートを適用する場合

本書 3.2.2 と 3.2.3 を参照してください

3.2.1 CLUSTERPRO Builderを新規インストールする場合

Builderをインストールしてください。

インストールの手順は『インストール&設定ガイド オフライン版 Builder を Linux マシンへインストールするには』を参照してください。

3.2.2 すでにインストール済みのCLUSTERPRO Builderにアップデートを適用する場合

Builderを再インストールしてください。

アンインストールの手順は『インストール&設定ガイド Builderのアンインストール』を、インストールの手順は『インストール&設定ガイド オフライン版 Builder を Linux マシンへインストールするには』を参照してください。

3.2.3 アップデートの確認

2.2.1 CLUSTERPRO Builderのバージョン確認の手順で、下記のバージョンになっていることを確認してください。

* Version 1.1.3-1

4 機能追加

4.1 CLUSTERPROサーバ

今回のアップデートの機能追加は | の項目です。

- (1) 対象ディストリビューション、対象kernelを拡充しました。
新規に対応したkernelについては、スタートアップガイド 第2版 第2章 を参照してください。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.1-1~
- (2) モニタリソースを追加しました。WebOTXモニタリソースに対応しました。
詳細はリファレンスガイド 第2版 第6章 を参照してください。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.2-1~
- (3) 対象ディストリビューションを拡充しました。
新規に対応したディストリビューションについては、スタートアップガイド 第3版 第2章 を参照してください。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.2-1~
- (4) 対象ディストリビューションを拡充しました。
新規に対応したディストリビューションについては、スタートアップガイド 第4版 第2章 を参照してください。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.3-1~
- (5) Oracleモニタリソースの文字コードにJAPANESE_JAPAN.JA16SJIS、JAPANESE_JAPAN.JA16SJISTILDE、TRADITIONAL_CHINESE_HONGKONG.ZHT16BIG5を追加しました。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.3-1~
- (6) DB2モニタリソースの文字コードにzh_TW.big5 をを追加しました。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.3-1~

4.2 CLUSTERPRO Builder

今回のアップデートの機能追加はありません。

- (1) モニタリソースを追加しました。WebOTXモニタリソースに対応しました。
詳細はリファレンスガイド 第2版 第6章 を参照してください。
この強化をサポートするRPMバージョン: 1.1.2-1~

5 修正情報

5.1 CLUSTERPROサーバ

今回のアップデートの修正情報はありません。

- (1) CLUSTERPRO X SingleServerSafeをreiserfsファイルシステムにインストールした場合にオンライン版Builderの起動に失敗する
原因: reiserfs上でreaddir()システムコールが正しいファイルタイプを返さないため
この障害が発生するRPMバージョン: 1.1.0-1
- (2) オンライン版Builder使用時に、グループ名やリソース名にスペースが含まれているとクラスタ構成情報のダウンロードに失敗する。
原因: javaのURLエンコード機能でスペースが”+”に変換され、存在しないファイルを取得しようとするため
この障害が発生するRPMバージョン: 1.1.0-1
- (3) 構成情報をオンライン版Builderのダウンロードで取得し、その構成情報をファイルシステムに保存した場合、スクリプトファイルの改行コードが不正になる
原因: WebManagerサーバとオンライン版Builderの間の送受信のコード変換処理に誤りがあったため
この障害が発生するRPMバージョン: 1.1.0-1 ~ 1.1.1-1
(この修正はBuilderのrpmではなくサーバのrpmに含まれます)
- (4) モニタリソース異常時のリカバリ処理でリソース再起動を実行する設定の場合に、依存関係のあるリソースが停止後に再起動されず停止したままとなる
原因: リソース起動時に通常起動か再起動かを判定し、再起動時には停止時に停止させた依存関係のあるリソースを再起動する必要があるが、判定条件に誤りがあり起動処理を実行していなかったため
この障害が発生するRPMバージョン: 1.1.0-1 ~ 1.1.1-1

5.2 オフライン版CLUSTERPRO Builder

今回のアップデートの修正情報はありません。

6 すでに運用中のCLUSTERPRO X SingleServerSafeを以前のバージョンに戻す場合



ダウングレード先のCLUSTERPRO X SingleServerSafeのバージョンで動作確認しているディストリビューション/kernelをよく確認してください。バージョンによっては現在使用中のディストリビューション/kernelでは動作確認していないバージョンがあります。詳細はスタートアップガイド 第4版以降を参照してください。

kernelのバージョンを戻す場合には、必ず下記の手順でkernelの変更を実施してください。

CLUSTERPRO X SingleServerSafeを以前のバージョンに戻すには以下の手順を実行します。

- (1) 以下のコマンドを実行してサービスの起動設定を変更します。

```
chkconfig --del clusterpro_alertsync
chkconfig --del clusterpro_webmgr
chkconfig --del clusterpro
chkconfig --del clusterpro_trn
chkconfig --del clusterpro_evt
```

次回のOS起動時にCLUSTERPRO X SingleServerSafeが起動しないように設定されます。

- (2) WebManagerからクラスタのシャットダウンを実行します。
WebManagerを使用していない場合には、サーバからclpstdnコマンドを実行してクラスタのシャットダウンを実行します。
- (3) サーバを再起動してrootでloginします。
- (4) 以前のバージョンのCLUSTERPRO X SingleServerSafeで動作確認済みのkernelバージョンに戻す場合には、このタイミングでkernelの変更を実施してください。
- (5) kernelの変更を行った場合には、サーバをshutdownコマンドやrebootコマンドで再起動して、rootでloginします。
- (6) ダウンロードして解凍処理を行ったrpmファイルを置いたディレクトリに移動します。

```
cd <rpmファイルを置いたディレクトリ>
```

- (7) IA32版の場合は以下のコマンドを実行してアップデートを行ってください。

```
rpm -U clusterprosss-1.1.X-X.i686.rpm --nodeps --force
```

x86_64版の場合は以下のコマンドを実行してアップデートを行ってください。

```
rpm -U clusterprosss-1.1.X-X.x86_64.rpm --nodeps --force
```

- (8) 以下のコマンドを実行してサービスの起動設定を変更します。
- ```
chkconfig --add clusterpro_evt
chkconfig --add clusterpro_trn
chkconfig --add clusterpro
chkconfig --add clusterpro_webmgr
chkconfig --add clusterpro_alertsync
```
- (9) 次回のOS起動時にCLUSTERPRO X SingleServerSafeが自動起動するように設定されます。
- (10) サーバをshutdownコマンドやrebootコマンドで再起動します。
- (11) WebManagerに接続しているブラウザを終了し、Javaのキャッシュをクリアした後、ブラウザを再起動してください。

以上で以前のバージョンに戻す手順が終了しました。次回の起動時からCLUSTERPRO X SingleServerSafeが起動します。